



## 適用病害と使用方法

### 散布

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	バチルス スプ チリスを含む農薬 の総使用回数
野 菜 類	灰色かび病 うどんこ病	1000倍	150～300ℓ/10a	発病前～発病初期	－	散布	－
ぶ ど う	灰色かび病		200～700ℓ/10a	開花期～幼果期			
かんきつ マンゴー							
な し							
稲	いもち病		200～300ℓ/10a	穂ばらみ期～刈取前			

### ダクト内投入

作物名	適用病害名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	バチルス スプ チリスを含む農薬 の総使用回数
野菜類 (トマトを除く)	うどんこ病	15g/10a/日	発病前~ 発病初期	—	ダクト内投入	—
	灰色かび病	10~15g/10a/日				
トマト	うどんこ病	15g/10a/日				
	灰色かび病	7.5~15g/10a/日				
マンゴー	灰色かび病	10g/10a/日				
かんきつ ぶどう		15g/10a/日				
花き類・ 観葉植物		10~15g/10a/日				

### 常温煙霧

作物名	適用病害名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	バチルス スプ チリスを含む農薬 の総使用回数
野菜類	灰色かび病	300g/10a	6~10ℓ/10a	発病前~発病初期	—	常温煙霧	—





## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 本剤の有効成分は生菌であるので、散布液調製後はできるだけ速やかに散布する。また、開封後は密封して保管し、できるだけ早く使い切る。
- 本剤は保護作用が強く予防効果が主体なので、散布処理を行う場合には発病前～発病初期に7～10日間隔で散布する。なお、生育の早い作物に使用する場合には、散布頻度を高める。
- 低温条件下（10℃以下）では効果が劣るので、使用をさける。
- 本剤は他剤と混用すると十分に効果が発揮されない場合があるので、注意する。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節する。
- 本剤の使用により葉及び果実などに汚れが生じるおそれがあるので、収穫期の使用には気をつける。
- 常温煙霧用として使用する場合は、下記の注意を守る。
  - ①専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。
  - ②作業は密閉できる環境で行い、作業終了後6時間以上密閉する。
- ダクト内へ投入する場合は、下記の点に留意する。
  - ①1ヶ月当たり 300～450g/10a になるよう、暖房機などのダクト取り付け口付近からダクト内に投入する。
  - ②暖房機などが数時間以上運転される条件下で使用する。
- 稲のいもち病を対象とする場合、穂ばらみ期に散布した後、7～10日間隔で計2回以上散布する。
- 稲のいもち病を対象に使用する場合、出穂直後4日以内に散布した後、7日間隔で計2回以上散布する。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等の指導を受ける。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等の指導を受ける。

## ⚠ 安全使用上の注意



- 使用の際は農薬用マスク、手袋、保護メガネ、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は、他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないように、施用した作物等との接触をさける。
- 夏期高温時の使用をさける。
- 常温煙霧中およびダクトによる散布中は、ハウス内へ入らない。また、常温煙霧およびダクトによる散布終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。
- ダクトによる散布の際は、送風停止中に本剤をダクト内に投入する。
- ダクトにより散布後にハウス内で作業する際は、送風機を作動させない。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…該当なし

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

